

沙羅の樹文庫だより



空と海の色 美しいですね！
下田の海 ネットからお借りしちゃいました。

砂山の砂に腹這い
初恋の
いたみを遠くおもひ出ずる日
(石川啄木)

紺青というのか群青色というのか、写真の海と空の色をみていたら、夏の終わりの胸がきゅんと苦しくなった若い日を思い出しました。まだ夏ははじまったばかりなのに。この詩には曲があって、私は鮫島有美子が歌うのが好きです。

でも、暑いですねっ。
熱中症、気をつけましょうね。

これからの催し物のお知らせ

★海の日のおはなし会 会場は伊豆高原駅大橋の下
7月14日(日)午後5:00~7:30
子どもの語り・ベテランの語り・うたと演奏
♥夕涼みがてら、伊豆高原駅へおいでください♥

※文庫開館記念子どものためのおはなし会(文庫で)
7月15日(月)午前10:30~11:45
♥文庫も満7歳になりま〜す♥

従って14日(日)の午前のおはなし会はありません。
☆8月の子ども《文庫で夏休み》は来年のお楽しみ

♪秋の夜長のおはなし会(大きい人向け)
10月19日(土)午後5:00~6:00

※秋の子どものおはなし会
10月20日(日)午前10:30~11:45
そして、

※クリスマスおたのしみ会 & 納会
12月22日(日)午前10:30~12:00
みんなで1年の無事を感謝しましょう。

☆☆今後の開館スケジュール☆☆

◆7月は変則13日(土)、14日(日)
開館記念日が海の日ですので、7月文庫の開館日はそれにあわせます。(第2の土日です)

※15日午前は開館記念日おはなし会

◆8月は16日(金)~20日(火) long

◆9月は通常14日(土)、15日(日)

◆10月は通常19日(土)、20日(日)

◆11月は通常16日(土)、17日(日)

◆12月は通常21日(土)、22日(日)

※文庫の時間：土曜日は午後2時~5時、
日曜日は午前10時~午後3時

※毎月開館日(日)「子どものための小さなおはなし会(午前10:30~11:00)」があります。

☆おはなし沙羅の勉強会は
毎月開館日(土)午前11:00~13:00です。☆

沙羅の樹文庫 電話 0557-51-3737

文庫あれこれ◆まったくもって暑いですねえ。熱中症にならないよう、積極的にエアコンを使いましょう！と、テレビが言いますが、貯水池には電気のもとの水があるのでしょうか？水力に頼れないからやっぱり原子力に頼りましょう、と言うのでしょうか。◆何度も「海の日のおはなし会」に触れて恐縮ですが、今年最後は、陸前高田の1本残った松の木のおはなしです。それもあって、常連の娘のバンドに、「花は咲く」を歌ってもらうことにしました。参加者全員でも歌えるようにと、ネットから歌詞をダウンロードしようとしたのですが、うまくいきません。そう言えば、歌う娘が、東北支援ということで、この歌を使う申請に700円だか払った、と言っていたのを思い出しました。◆眼は秋に白内障の手術を受けることになっていますが、耳も相当聞こえなくなり、意を決して耳鼻咽喉科に行きまして、なんだかMRI検査を受ける羽目になりました。◆それでも6月の終わりに友人と山形に行きました。今回は、新庄の神代杉の林(幻想の森というらしい)と、酒田の味噌蔵だか米蔵だかの風情と、土門拳美術館の写真(土門さんが写しとった仏さまや、建物や、野の花や、子ども達の何気ないしぐさなどに心をぎゅっと掴まれました。◆母が逝って1年、今更ながら母からの恩恵に生かされていることを思い知らされます。いつも私事ですみません。◆7月は更新月です。会費をお願いいたします。◆気力だけでは難しいけど、自らを元気づける何かを見つけて、この暑さを撥ね返して、佳い夏をお過ごしください。◆踏ん張って、本たくさん入れました！ (西村)



新庄の神代杉の林

7月に読んだ本についての感想

2013年7月12日 By 森林浴

『想像ラジオ』 いうせいこう著 河出書房新社刊 2013年5月第5刷

7月4日の新聞にこの本が芥川賞の候補作品に選ばれたことが報ぜられた。

実は此の本を文庫に入れて欲しいと希望した時、私はいうせいこうと言う人を実はよく知らなかったのだが、ナンシー関に関する読書感想を書いたときナンシーの仲間というか先輩格の作家としての此の人の記憶があり、朝日新聞の此の本の広告を見たとき何となく「これはいいな」という勘が働いた。

著者は池澤夏樹との対談で、「被災地を車で走っていた時、暗闇の中からざわざわと声が聞こえると思った。それを聞き取らないとダメだと思った。僕は16年間小説が書けなかったが、震災チャリティーで短編を数本書いた後、あの声を書かなければ二度と書けないと思い、『想像ラジオ』を書き始めた。震災関連の労作は多いが、死者と生者をつなぐフィクションがなくて、今回、池澤さんの『双頭の船』を読んで、向こう側とこちら側とに通路があり、そこに風が吹けば、死者と生者をつなぐ何かが生まれると感じた」と語っている。大津波で流され高い杉のてっぺんに引っかかった男の死体が（まだ死んでいないみたいに）ディスクジョッキーになって空想ラジオで話したり音楽を流したりしているのを、死者も生者も聴いている。3月11日の大震災の記憶はどんどん風化している、その我われの鈍感な怠慢にぐさりと突き刺さってくるようなこれは見事な作品だ。古川日出男、池澤夏樹などと並んで大震災体験を鋭く追及した小説の

白眉のひとつとなると思う。

『2030年世界はこう変わる』 米国国家情報会議編 谷町真珠訳 講談社刊 2013年5月第4刷

序文で立花隆が、『報告は、第一義的にはアメリカ大統領のために作られる。———未来予測は外れることが多いから、ちがう未来展開の可能性が沢山書いてある。———日本は最悪のシナリオなら滅んでも同然だが、最善のシナリオならまだいける。』と書いている。向こう20年の世界の動向予測。日本の最大の問題は基本的に人口構成で、52～53ページの4つの人口の年齢別構成グラフに見るように2025年の日本はかつて人類が経験したことのない頭でっかちな形となり、想像を絶する老人中心社会になるだろう。これからの日本は大変だ。

『幕末史』 半藤一利著 新潮社刊 2009年9月第7刷

どなたからの寄贈本らしいが、著者が慶応丸の内シティキャンパスの特別講義として1回1時間半から2時間のおしゃべり12回分をまとめたものということで、要するに『講談』。史実が丁寧にぎっしり詰まっている割にまことに読みやすく読んでいて楽しい。嘉永6年（1853年）から明治11年（1878年）、なんというドラマチックな25年だろう。官軍・賊軍という不公平な分け方、いわゆる薩長の傲慢、「維新」の実態、天皇家の存在感の希薄さ、高杉晋作や坂本竜馬、勝海舟、西郷隆盛などの「英雄」の実態、などなど実に面白い。子供の時旧長岡藩だった新潟県長岡市によく通って官軍や薩長嫌いになったという著者だが、私個人も薩長嫌いだし、会津藩の過酷な運命にも深く同情してしまう。

うれしいホットニュース!

文庫子ども会員の富戸小6年 岡田幸樹くん
伊豆新聞6月23日朝刊「未来の達人コーナー」に!

小さいころより料理をつくるのが好きで、ここ3年「ウイズガス全国親子クッキングコンテスト」県大会に父子で出場。将来の夢は発明家とか。料理を趣味に、人の役に立つものを作りたい、そうです。

幸樹くんは、弟の朋樹くんと共に、伊豆高原「海の日のおはなし会」に子ども参加が始まった3年前から語り手として参加。今年もほかの5人の子どもたちと、7月14日夕、伊豆急・伊豆高原駅広場で語ってくれます。

さらのきのひとりごと

今年も伊豆高原海の日のおはなし会の日が近づいたなあ。子どもたちの自主的参加がとても嬉しい。スタッフも地元の各所にチラシを配ってくれた。今年で13回、よく続いたものだ。伊豆急の後援をもらったのも、当時やまもプラザの事務局長さんだったSさんのお蔭。おはなし会の当日は、文庫を建ててくれた伊豆急ハウジングの専務さん直々にイスを並べてくれる。わらべ絵館さんが、ステキな絵地図に、駅のクスノキのところにおはなし会があると書き入れてくれた。必ず聴きにきてくれる人たちもいる。でも、でも、と考える。コーラスの会はいつも盛況と聞く。歌は人の心を湧き立たせる。素晴らしいと思う。昨日、観光会館でお芝居を観た。結構お年を召した人々が、舞台の一喜一憂に楽しそう。おはなしだって、負けないんだけどなあ。素人の語りに時間はさけないのかなあ。文庫に本は借りに来てくれるのとは違うのかなあ。などと、思いながら、今年から従来の各地からの海の日語り手に混じって、沙羅の樹の語り手も2人嬉しいデビュー。そして、いつか伊豆高原の風物詩になれるといいな。練習に励んで、続けていきたい。継続は力なり、でしょ♥

7月に文庫に入った子どもの本

今年の課題図書から選んで入れてみました。

～～第59回青少年読書感想文全国コンクール～～

《小学校低学年の部》

『わたしのいちばん あのこのいちばん』(ウォルチ作
バートン絵 薫くみこ訳 ポプラ社)

『なみだひっこんでろ』(岩瀬成子作 岩崎書店)

『メガネをかけたら』(くすのきしげのり作 たるいし
まこ絵 小学館)

《小学校中学年の部》

『くりいむパン』(濱野京子作 くもん出版)

《小学校高学年の部》

『有松の庄九郎』(中川なをみ作 新日本出版社)

『はるかなるアフガニスタン』(クレメンツ作 田中奈
津子訳 講談社)

《中学校の部》

『フェリックスとゼルダ』(クライツマン作 原田勝訳
あすなろ書房)

《高等学校の部》

『ジョン万次郎』(プロイス作 金原瑞人訳 集英社)

絵本

『おたまさん』(軽部武宏さく 長崎出版)

『たかこ』(清水真裕作 青山友美絵 童心社)

『いるのいないの』(京極夏彦作 町田尚子絵 岩崎
書店) 『じてんしゃにのるアヒルくん』(デイビッ
ド・シャノンさく 小川仁央やく 評論社) 『ぼくのだ

いすきなケニアの村』(アナ・ファン作 BL出版)

『ふかいあな』(フレミング作 ローマン絵 なかがわ
ちひろ役 あすなろ書房) 『あるひぼくはかみさま
と』(クローザー作 ふしみみさを訳 講談社)

読み物

『秘密の花園』(バーネット作 猪熊葉子訳 福音館
文庫) 『バーネット自伝』(バーネット著 松下宏子、
三宅興子訳 翰林書房)※(上記の秘密の花園や小公女
を書いた人です。併せて読んでみませんか!)

『母さんがこわれた夏』(マリャレーナ・レムケ作 松
永美穂訳 徳間書店 2013) ※request 『わたし
は倒れて血を流す』(ヤーゲルフェルト作 ヘレンハ
ルメ美穂訳 岩波書店 2013) 『きみはいい子』(中
脇初枝作 ポプラ社)※こんな母親がいるのか、と思っ
つつ、その中に自分を見る?!

★上記は中学生以上、そして大人に読んでほしい本。

『決定版 心をそだてる松谷みよ子の日本の神話』(講
談社) 『絵でみる世界の名作 イラスト図解 古事
記』(三浦祐之現代語訳 PHP 研究所)※ふたたび
教科書に載りはじめたとか。親子で日本の神話を辿っ
てみませんか! 真偽と思想はともかくとして。絵本で
も日本の神話5冊がすでに入っています。)

文庫

『引き出しの中の家』(朽木祥作 ポプラ文庫)

『魔法の宅急便2 キキとあたらしい魔法』(角野栄子
作 角川文庫)

♥広瀬さん寄贈本は掲載しませんが、今回、絵本の
部屋の棚に別置しました。(8月も追加を並べます♥)

7月に文庫に入った新しい大人の本

フィクション

『百鬼園百物語』(内田百閒著 平凡社) 『教場』
(長岡弘樹著 小学館 2013)

『壺中の回廊』(松井今朝子著 集英社 2013)

『時は老いをいそぐ』(アントニオ・タブッキ著 和
田忠彦訳 河出書房新社 2013) 『世界地図の下

書き』(朝井りょう著 集英社 2013) ※request 『泣
き童子』(宮部みゆき著 文芸春秋 2013) 『薔

薇とビスケット』(桐衣朝子著 小学館 2013) 『脊
梁山脈』(乙川優三郎著 新潮社 2013) 『旅猫リポ

ート』(有川浩著 文芸春秋 2012) 『ヤマネコ・ド
ーム』(津島祐子著 講談社 2013) 『The sku |

breaker スカル・ブレーカ』(森博嗣著 中央公論新社
2013) 『しろいろの街のその骨の体温の』(村田沙

耶香著 朝日新聞出版 2012) 『月下上海』(山口
恵以子著 文芸春秋 2013) 『残穢』(小野不由美

著 新潮社 2013)

エッセイほか

『愛する伴侶を失って 加賀乙彦と津村節子の対話』
(集英社 2013) 『鴨長明 方丈記』(小林一彦〔著〕

NHK 出版) 『ブッダの最期のことば』(田上太秀
著 NHK 出版) 『名画が愛した女たち』(木島俊

介著 集英社) ※request 『広辞苑の中の掘り出し
日本語③ 花鳥風月編』(永江朗著 バジリコ)

『犬心』(伊藤比呂美著 文藝春秋 2013) 『もうひとつのこの世—石牟礼道子の宇宙』(渡辺京二著 弦書房 2013) 『あの人のいっしょにいられる時間はもうそんなに長くない』(千田琢哉著 2013) 『覚悟の磨き方—超訳吉田松陰』(池田貴将編訳 サンクチュアリ出版 2013) 『人は死なない』(矢作直樹著 バジリコ 2013) 『シッタータの旅』(竹田武史構成・写真 ヘルマン・ヘッセ原作 高橋健二訳 新潮社 2013) 『私の東京平和散歩』(早乙女貢著 新日本出版社 2013) 『ピアノの歴史』(スチュアート・アイサコフ著 中村友訳 河出書房新社 2013) 『図書館に通う』(宮田昇著 みすず書房 2013) 『千年の百冊』(鈴木健二編 小学館 2013)

文庫

『逃亡 上・下』(帚木蓬生著 新潮文庫)※request
『激流 上・下』(柴田よしき著 徳間文庫)※request
『王様ゲーム』『王様ゲーム終極』『王様ゲーム臨場』『王様ゲーム滅亡 6.08』『王様ゲーム 6.11』※request
『人間の絆 上・下』(サマセット・モーム著 岩波文庫)
『日本の血脈』(石井妙子著 文春文庫 2013) 『ノラヤ』(内田百閒著 中公文庫) 『山口昌男コレクション』(今福龍太編 ちくま学芸文庫)
『5分で読めるひと駅ストーリー—夏の記憶 東口編』『5分で読めるひと駅ストーリー—夏の記憶 西

口編』(宝島社 2013)

『10分間ミステリー』『もっとすごい10分間ミステリー』(宝島社 2012,2013)

～～こんな本も買っちゃいました！～～

時々行く S 町のちょっとおしゃれな雑貨屋さんには、楽しい雑貨のほか、一般の書店では見られない棚ぞろいの本をみつけることがあります。

☆絵本だけど、大人に読んでほしい本

『おばあちゃんのキルト』(ナンシー・ウィラード作 トミー・デ・パオラ絵 長田弘訳 みすず書房)
『いちばん美しいクモの巣』(アーシュラ・ル・グウィン作 ジェイムズ・プランスマン絵 長田弘訳 みすず書房) 『アライバル』(ショーン・タン作 河出書房新社)※文字のない絵本 『遠い町から来た話』(ショーン・タン作 岸本佐和子訳 河出書房新社)

◆あの人たちの顔を思い出すとどうしても買ってしまふネコがらみの本

『私のネコたち赦してほしい』(佐野洋子著 ちくま文庫) 『トマシーナ』(ポール・ギャリコ著 創元推理文庫)

★懐かしい人たちの本

『精選女性随筆集7 白州正子』(小池真理子選 文芸春秋) 『精選女性随筆集9 須賀敦子』(川上

弘美選 文芸春秋)※意外な選者でちょっと面白い企画ですね。 『わたしのメルヘン散歩』(矢川澄子著 ちくま文庫)

寄贈本

あり Fさんの丹精で今年はじめて咲いたアナベル(紫陽花)・・・文庫の門入って

『人間の運命13 14』(ワカノリ石長著 徳間文庫)
『漱石の妻』(鳥越碧著 講談社文庫) 『きみ去りしのち』(重松清著 文春文庫) 『秘密』(東野圭吾著 文春文庫)
(佐伯泰英著)
『よっ、十一代目』(ハルキ文庫)『再会』(講談社文庫)『転び者』(新潮文庫)
(文春文庫)
『無名時代の私』(文藝春秋編) 『幻の旅』(林望著) (新潮文庫)
『なみだ壺』(村松友視著)『七つの危険な真実』(赤川次郎ほか著)
(ハルキ文庫)
『夜明けのコーヒーを君といっしょに』(森村誠一著)『出雲神々への愛と恐れ』(西村京太郎著)『夜明けの街で』(東野圭吾著 角川文庫)
田辺聖子著
『ブス愚痴録』(文藝春秋) 『めえーる』(世界文化社) 林望著
『リンボウ先生イギリスへ帰る』『リンボウ先生遠めがね』(文春文庫) 『イギリス人の食卓』(角川春樹事務

